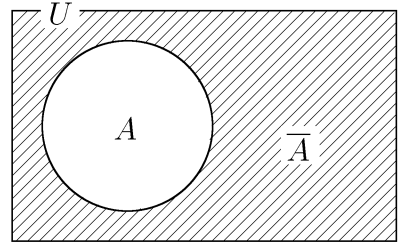


## ● 余事象

全事象  $U$  の中で、事象  $A$  に対して、「 $A$  が起こらない」という事象を、 $A$  の \_\_\_\_\_  
といい、記号で \_\_\_\_\_ とかく。

- 例 1** ● 1個のサイコロを振って「偶数の目が出る」  
→余事象は「奇数の目が出る」
- 1～9の番号札から1枚引き「5, 7, 9である」  
→余事象は「1, 2, 3, 4, 6, 8である」



※命題で言う「否定」、集合で言う「補集合」と同じものだと考えればよい。

余事象の確率は、もとの事象の確率を、全体から引けば求まる。

## ● 余事象の確率 ●

$$P(\bar{A}) = 1 - P(A)$$

- 例題 1** 赤玉5個と白玉3個が入っている袋から、3個の玉を同時に取り出すとき、少なくとも1個が白玉である確率を求めよ。

(吉教科書 p.96 例題 8)

---

[MEMO]